

「選ばれた信仰。」 イザヤ書 46章 3～4節

1 世界情勢は緊迫しています。

第二次大戦、石油が日米開戦の要因でした。A B C D包囲網の対日禁輸で窮し、蘭領インドネシアの石油確保に走りまわりました。八十年以上を経た今日、同じような禁輸や石油危機に見舞われています。

地上では、「力こそ正義なり」という詭弁が蔓延していますが、暴力は反正義です。正義は、神の意思である法秩序に叶うことです。法に従い、神の御心を行う意思です。聖書では、神の御心に反する「罪人」は地獄とされ、神の御心に叶う「義人」は天国、と完全に区別されます。

日本語で「正義」とは、神の御心に完全に従う「信仰」「意思」「心」です。完全に従えない私たちには、完全な主イエスキリストが救い主となります。基督を信じるとは、基督に自己を全部委ねることです。もはや、自分は自分ではなく、基督の一部なのです。基督に担われた者です。基督の故に神の心を行えるのです。とはいえ、自分の意思で神の心を行う決心が不可欠です。

車を運転して気になることがあります。道路交通法は「右折するときは、交差点の中心の直近の内側を」と規定し、自動車学校では「内大回り」と教えられた筈ですが、殆どの車がこのルールを忘れてるようです。右左折のノーウィンカー、三台に一台の割合とか。右折で大回りし、ウィンカーを出すのはダサイということです。ルールを破るのがかっこいいという心理です。ルールの根源は神の御心ですから、神の御心に反するのがかっこ良いということです。エデンの園でエバに働きかけた悪魔の心理です。

2 「我に聞け。ヤコブの家よ。イスラエルの家の残りの全ての者よ。胎の中から荷なわれた者らよ。胎内からの族長よ」

私たちは、基督にあつて、真のイスラエルです。胎内から神によって選ばれ、荷われて来たのです。組織神学では、一度定められ、変更されることがない神の御業を「聖定」と言い、「創造」「摂理」「選び」の三つがあるとしています。「摂理」は、神が被造物の一切の行動を定め導かれるということです。これを知ることが大きな助けです。何気ない日常の些細な事柄一切が神の御手の内にあるのです。選びは胎内から始まっています。その後の人生のあらゆる側面に、神の選びが現れています。もちろん、最高の選びは、神の民への選びです。

3 「我に聞け。ヤコブの家よ。イスラエルの家の残りの全ての者よ。胎の中から荷なわれた者らよ。胎内からの族長よ。」神は、選ばれた者に向

かって、「我に聞け」と言っています。当然の、大原則です。神が定められたことなので、定められた神に尋ね、聞くのが至当です。

「老年に至るまで、我こそは、白髪に至るまで、我が(汝の)重荷を負う。我が為さしめ、我が運び、我が担い、我が救う」一生涯を、神が重荷なる私を負ってくださるのです。神が私に何かを為させ、私に役目を与え、決断させ、行動させてくださるのです。神が私を運んで、動かしてくださり、常に、私を担って、最後には救ってくださるのです。信仰の根本を再認識させられます。

イスラームでは、一日五回の礼拝が定められています。とはいえ、あくまで信仰上のルールなので、国家の刑法のような罰則はありませんし、無理な礼拝が強いられるのではなく、困難な者の免除も定められています。強制された道路交通法ですら守れないのなら、任意の信仰を守るのには極めて大変です。毎週日曜日に教会に行き礼拝し、献金を献げるのはダサイ、自分の仕事で神に祈り、聖霊の助けを求めるのはダサイ、個人の悩みで基督に祈るのはダサイ、のでしょうか。

エゼキエル書33章13節には、「わたしが正しい人に、『あなたは必ず生きる。』と言っても、もし彼が自分の正しさに抛り頼み、不正をするなら、彼の正しい行ないは一つ覚えられず、彼は自分の行なった不正によって死ななければならない」と書かれています。クリスチャンだから天国と豪語して、正義に反することをしようと地獄へ行くよ、という戒めです。

ダニエルは、日に三度、エルサレムに向かい、窓を開け、ひざまずいて、神に祈るのを日課としていました(ダニエル六章)。それに目をつけられた政敵が、神に祈るのを禁止する法律を發布しますが、ダニエルは日課を止めません。強制ではないので、やめても構いませんが、ダニエルは、自分の信仰の問題としてやめません。待つてましたとばかりに、政敵に逮捕され、ライオンによる死刑に処されますが、神がライオンの口を閉ざして、ダニエルを守られました。

強制されて従うのではなく、自ら意思して守る、それが信仰です。ダサイ信仰、あえて守るのは、選ばれた者の証しです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成
 主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛を持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。
2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導
 聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。
3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成
 教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。
4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践
 神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。
5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成
 教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

イザヤ 46:3 ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。

46:4 あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。

46:5 わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。

46:6 袋から金を惜しげなく出し、銀を天秤で量る者たちは、金細工人を雇って、それで神を造り、ひざまずいては、これを拝む。

46:7 彼らはこれを肩に担いで運び、それがあつたところに安置すると、それはそこに立ったままである。これはその場所から動かない。これに叫んでも答えず、苦しみから救ってもくれない。

46:8 このことを思い出し、勇み立て。背く者たちよ、心に思い返せ。

46:9 遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。

46:10 わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。

46:11 わたしは東から猛禽を、遠い地から、わたしの計画を行う者を呼ぶ。わたしは語って、それを来たらせ、計画を立てて、それを実行する。

46:12 わたしに聞け、頑なな者たちよ。正義から遠く離れている者たちよ。

46:13 わたしは、わたしの義を近づける。それは遠くはない。わたしの救いが遅れることはない。わたしはシオンに救いを、イスラエルにわたしの栄えを与える。」

聖書直訳：イザヤ 46章 3. 4節
 我に聞け。ヤコブの家よ。イスラエルの家の残りの全ての者よ。
 胎内から荷なわれた者らよ。母胎からの族長よ。
 老年に至るまで、我こそは、白髪に至るまで、我が（汝の）重荷を負う。
 我が為さしめ、我が運び、我が担い、我が救う。